

甲府城下町遺跡VII

— 集会施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2012

甲府市教育委員会
国際文化財株式会社

例　　言

- 1 本書は甲府市中央三丁目3番地に所在する甲府城下町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は甲府市による集会施設建設工事に伴う事前調査であり、甲府市教育委員会の委託を受け国際文化財株式会社が実施したものである。
- 3 調査経費は試掘調査、本調査とも甲府市が負担した。
- 4 発掘調査及び出土品の整理は国際文化財株式会社が実施し、竹内俊之が担当した。
- 5 発掘調査の期間及び面積は次の通りである。
平成24年3月5日～平成24年3月23日　　調査面積 290 m²
- 6 本書の執筆は第1章、第2章第1節・第3節を伊藤正幸（甲府市教育委員会）、第2章第2節・第4節、第3章、第4章を竹内俊之が行い、図化及び編集作業は小日置晴展（国際文化財株式会社）が行なった。
- 7 空中写真撮影は株式会社スカイサーベイにお願いした。
- 8 陶磁器の鑑定は惟村忠志氏にお願いした。記して深く謝意を表す次第です。
- 9 本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。
- 10 発掘調査参加者（敬称略・50音順）
池田幸子、伊藤康祐、糸日谷勇、岩佐亮治、小川吉博、小川正悟、川崎建雄、神田久美子、近藤明代、塩澤宏紀、菅原榛香、菅原由美子、高石素直、土井みさほ、中橋三千男、新津多恵、新津正大、野沢ひろみ、バイデ直子、宮下真樹子
- 11 発掘調査から本書刊行に至るまで下記の方々・諸機関よりご教授、ご協力をたまわった。
記して深く謝意を表す次第です（敬称略・順不動）
宮里学（山梨県埋蔵文化財センター）　早川紀子（有限会社松風）

凡　　例

- 1 遺構計測値の単位はセンチ（cm）。遺物計測値の単位はミリ（mm）である。小数点以下はいずれも四捨五入している。
- 2 土層説明の色調の土色表示は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖（2007年度版）』を使用した。
- 3 遺構断面図、土層図の数値は標高を示している。
- 4 本書で使用した図面の方位は、原則として座標北であり、測量値は世界測地系による。

目 次

例 言

凡 例

目 次

| | |
|---------------------|---|
| 第1章 遺跡を取り巻く環境 | 1 |
| 第1節 遺跡の地理的環境 | |
| 第2節 遺跡の歴史的環境 | |
| 第2章 調 査 概 要 | 4 |
| 第1節 調査に至る経緯 | |
| 第2節 調査経過 | |
| 第3節 試掘調査 | |
| 第4節 調査の方法 | |
| 第5節 基本層序 | |
| 第3章 遺構と遺物 | 6 |
| 第1節 遺構の出土状況 | |
| 第2節 井戸跡 | |
| 第3節 溝跡 | |
| 第4節 ピット | |
| 第5節 切石積側溝跡 | |
| 第6節 攪乱出土の遺物 | |
| 第4章 まとめ | 7 |

挿図目次

| | | |
|------|--------------------|----|
| 図 1 | 遺跡を取り巻く地形 | 2 |
| 図 2 | 甲府市街と調査地点の位置 | 2 |
| 図 3 | 調査地点の周辺 | 3 |
| 図 4 | 調査の範囲 | 3 |
| 図 5 | 基本層序 | 5 |
| 図 6 | 遺構の分布 | 8 |
| 図 7 | 1号井戸跡 | 9 |
| 図 8 | 2号井戸跡 | 10 |
| 図 9 | 1号溝跡 | 11 |
| 図 10 | 1号ピット | 11 |
| 図 11 | 2号ピット | 11 |
| 図 12 | 切石積側溝跡 | 12 |
| 図 13 | 2号井戸跡出土遺物 | 13 |
| 図 14 | 1号溝跡出土遺物 | 14 |
| 図 15 | 攢乱出土遺物（1） | 15 |
| 図 16 | 攢乱出土遺物（2） | 16 |
| 図 17 | 攢乱出土遺物（3） | 17 |

表目次

| | | |
|-----|--------------------|----|
| 表 1 | 2号井戸跡出土遺物観察表 | 18 |
| 表 2 | 1号溝跡出土遺物観察表 | 18 |
| 表 3 | 攢乱出土遺物観察表（1） | 19 |
| 表 4 | 攢乱出土遺物観察表（2） | 20 |

写真目次

| | | |
|-------|----------------------|----|
| 写真 1 | 上空からの調査範囲（北から） | 21 |
| 写真 2 | 完掘状況 | 21 |
| 写真 3 | 基本層序北壁（南から） | 21 |
| 写真 4 | 1号井戸跡断面（西から） | 22 |
| 写真 5 | 1号井戸跡完掘（西から） | 22 |
| 写真 6 | 2号井戸跡断面（南から） | 22 |
| 写真 7 | 2号井戸跡完掘（南から） | 23 |
| 写真 8 | 1号溝跡完掘（南西から） | 23 |
| 写真 9 | 切石積側溝跡と胴木（西から） | 23 |
| 写真 10 | 2号井戸跡出土木製品 | 24 |
| 写真 11 | 1号溝跡出土遺物 | 25 |
| 写真 12 | 攢乱出土遺物（1） | 26 |
| 写真 13 | 攢乱出土遺物（2） | 27 |

第1章 遺跡を取り巻く環境

第1節 遺跡の地理的環境

現在の甲府市域は、秩父山塊の主峰金峰山(2599m)を北端とし、また御坂山塊の三方分山(1422m)を南端とする。東西が7.2kmなのに対し、南北41kmに及ぶ、南北に非常に長い市域を有し、中央部は扇状地及び沖積原により構成される。

多良峠に発する相川は、湯村山と愛宕山とに挟まれた地域に小規模な扇状地を開析する。いわゆる相川扇状地で、その扇端部分は現在の甲府駅周辺に至る。この扇状地北側では中世において武田氏による甲斐国への支配及び領国経営が展開された、武田氏館及び武田城下町が位置した地域である。

扇端を過ぎて南には、荒川の氾濫による沖積原が展開する。この沖積原は市域の中央部において濁川沖積原、さらに南部の笛吹川沖積原などと複雑に重複しながら複合沖積原を構成している。甲府城及び甲府城下町は、この相川扇状地扇端部分から沖積地へ移行する境界部分に形成された都市である。

甲府城は、標高304mあまりの独立峰である一条小山に築かれた天守を中心に建設され、城下町の範囲は概ね東西1.5km、南北1.8kmに拡がる。今回の調査地点は、甲府城天守から水平距離にして450mほど東に位置しており、この位置は、二の堀及び三の堀に囲まれた町人屋敷地の北、三の堀の外側に位置する。

第2節 遺跡の歴史的環境

天正10年(1582)3月、武田氏を滅亡させた織田信長は武田氏旧領の国割を行い、甲斐国について穴山氏知行地を除いて川尻秀隆に統治させた。しかし秀隆の甲斐統治は二カ月余りで、本能寺の変により織田信長が暗殺されると、甲斐国民による一揆のため殺される。その後甲斐国の統治にいち早く着手したのが徳川家康で、彼は甲斐国統治の必要性から政庁を兼ねた築城に着手することになる。

甲府城の縄張りは、天正11年(1583)、平岩親吉により開始されたとされる。築城の過程で天正19年(1591)には一蓮寺の移動が加藤光泰により行われるなど、大規模な作業を経て、慶長8年(1603)、平岩親吉が再度城代のときに一応の完成とされる。

甲斐国は江戸時代に2回幕府直轄領となる。一度目が寛永9年(1632)～寛文元年(1661)で、このときは将軍家綱の弟である綱重が甲府城主になって着任する。二回目が享保9年(1724)柳沢吉里が大和郡山に転封になったことによる。

享保9年、甲府代官として奥野俊勝が任命されると、当初は帰命院の仮陣屋に着任したとされる。長禅寺前に移転するのは翌年のこととされ、明治維新まで甲府陣屋は継続することになるのである。

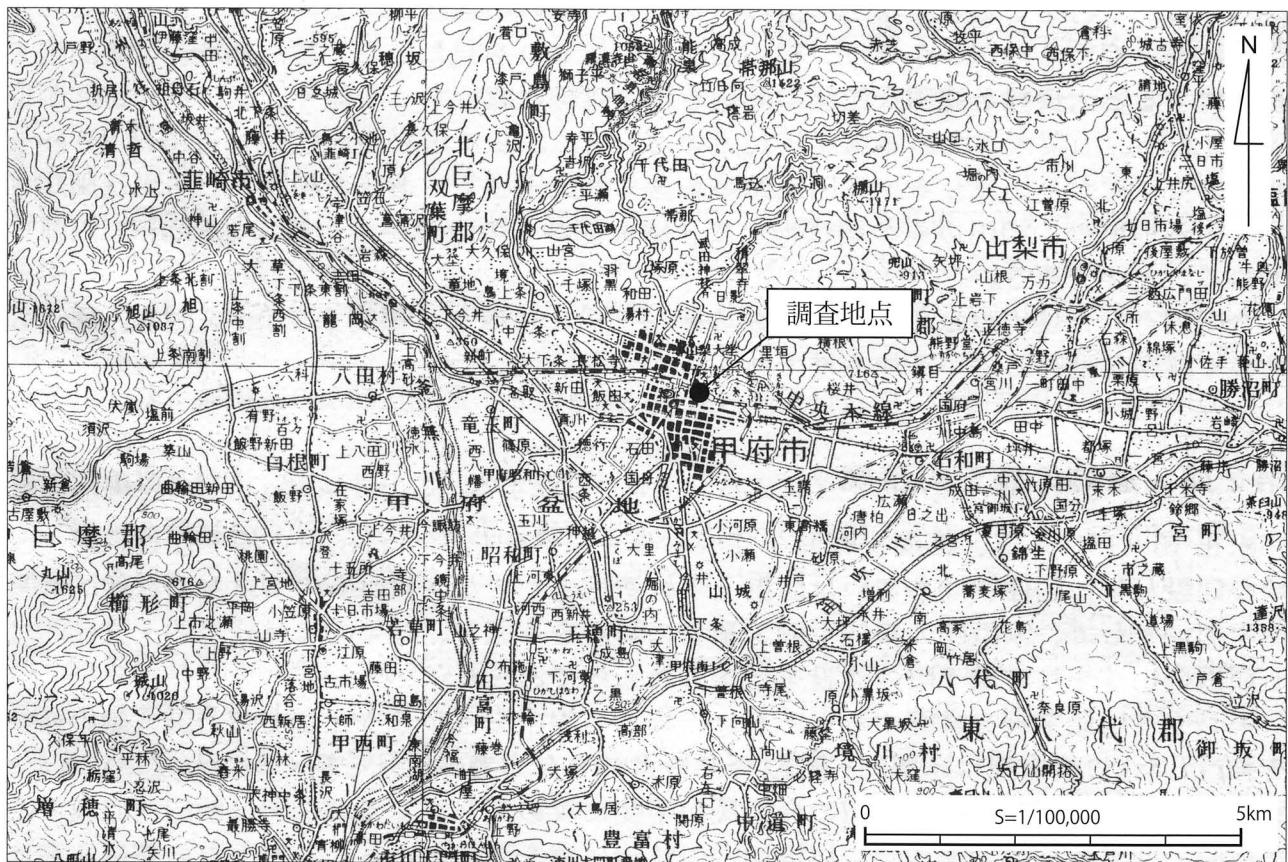


図1 遺跡を取り巻く地形

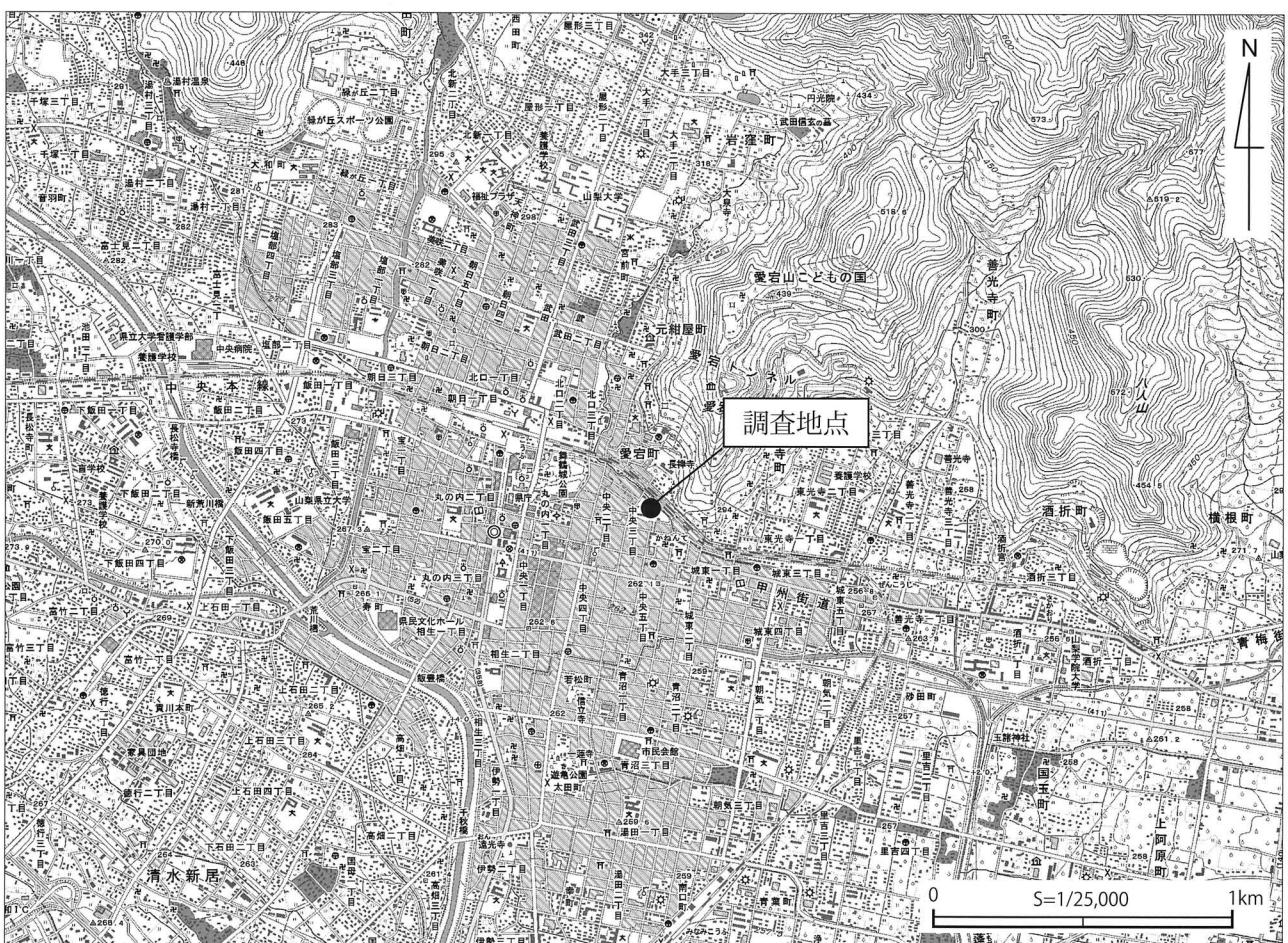


図2 甲府市街と調査地点の位置



図3 調査地点の周辺

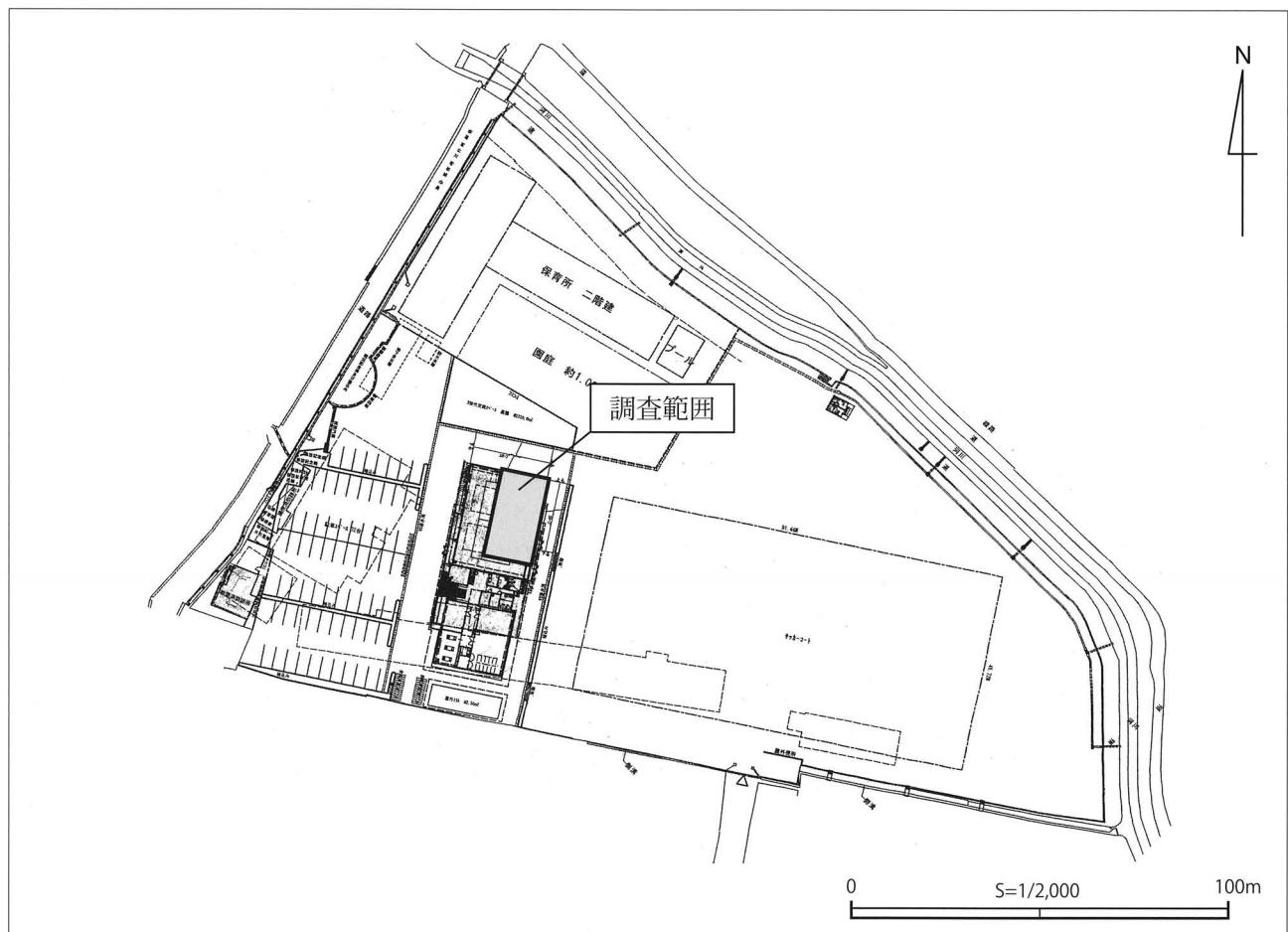


図4 調査の範囲

第2章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

旧富士川小学校敷地内において、集会施設建設に係わり、平成23年9月1日付けで文化財保護法94条に基づく通知が甲府市から提出された。この通知を受けて甲府市教育委員会では現地が江戸時代の甲府陣屋跡に比定されることにかんがみ、埋蔵文化財保護の観点から、担当部署と協議を行い、試掘確認調査の実施と、この調査により埋蔵文化財が確認された際の発掘調査について、理解を得た。

試掘調査は平成24年1月24日から1月27日までの間に行つた。試掘調査の結果、校舎などの建物に伴う攪乱以外に、城下町あるいは甲府陣屋に関連する可能性のある埋蔵文化財包含層が確認されたため、甲府市の担当部署と協議を行い、埋蔵文化財保護のために、発掘調査を実施することとした。

第2節 調査経過

調査は平成24年3月5日より発掘機材および重機搬入、調査区設定等の事前準備を行い、翌6日から調査区北側より表土掘削、遺構確認作業を開始した。12日から13日にかけて遺構検出面精査、試掘時のトレーナーと攪乱坑の精査を行い、近世以降の遺構を5基と旧木造校舎に伴う切石積側溝跡を検出した。また、仮基準点を設置した。14日から16日、遺構調査を開始。井戸跡は安全を考慮し、深さ約1.2mまでを人力掘削とした。また、基本層序の確認を行つた。19日、場外の既設水準点より仮基準点へ水準点移動測量と遺構測量を行つた。21日、空中写真撮影を実施。その後重機によって井戸跡の断ち割り掘削作業を行つた。22日、井戸跡を断ち割りした断面で、遺構検出面より深さ3mまでの自然堆積層の確認を行つた。以上にてすべての調査を終了し、調査区埋め戻しを開始した。23日、埋戻し終了。市教委担当者に完了確認引渡し作業を行い、現場から撤収した。

第3節 試掘調査

試掘調査は平成24年1月24日から1月27日までの間に集会施設及び消防分団の施設部分で実施した。調査は、幅2mの試掘溝を設定し重機で荒掘りを行つた後、精査する方法で行つた。

集会施設地点においては、旧校舎による攪乱が激しく、場所によってはコンクリート瓦礫が埋められている状況が確認できた。しかし攪乱を受けていない部分では地表面下70cmほどで地山（黒色粘土及び黄色粘土の混合土層）が確認され、その上面には有機質の黒色土層、あるいはその面での焼土等も一部で確認された。

一方消防分団の施設地点では調査地の大半が旧給食室にあたり、ガスや上下水道の埋設管による攪乱が激しく、埋蔵文化財の包含層は確認されなかつた。

第4節 調査の方法

調査は市教委担当者立会いの下、重機を用い遺構検出面までの表土を除去した。その際、攪乱土及び試掘調査時の埋土も合わせて取り除いている。遺構確認作業後、規模の小さい遺構（1号井戸跡、溝跡、ピット）は人力により半截して掘り下げ、土層観察を行つてはいる。なお2号井戸跡は開口部の規模が大きく覆土が非常に硬質だったため、重機による荒掘りの後、人力で掘削精査を行なつた。

遺構の図化は断面図を手実測、平面図を平板測量とトータルステーションにより記録し、遺物は遺構ごとの一括資料とした。また遺構調査終了に合わせて、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行なった。なお、人力掘削で完掘できなかった井戸跡は、埋め戻しの前に重機によって断ち割り掘削で底面を確認し、同時に自然堆積層の観察も行った。

第5節 基本層序（図5、写真3）

当地点の地表面標高は、標高 265.76m～260.38m である。基本層序は 1 層から自然堆積層である 6 層までを調査区北壁面の西隅、調査区東壁の南東隅の 2ヶ所で確認し、それ以下の層序については、1号井戸跡の断ち割りで 14 層（自然堆積層）までの確認を行なった。

1a～1c 層は現地表面を形成する地層で、旧鉄筋校舎校庭造成時の整地盛土層である。2層も造成による客土であるが、近世以降の遺構確認面でもある。3層以下は自然堆積層で、相川扇状地上に一般的にみられる粘土質シルト層に相当する。

| 層序 | 土色 | 土質 | 混入物等 |
|----|-------------------|----------------------|--|
| 1a | 10YR6/3 にぶい黄橙色 | 砂 しまりあり粘性なし | 現地表面を形成する表土層で、旧鉄筋校舎校庭造成時の整地盛土層である。敷き均し転圧した校庭用の山砂。 |
| 1b | 10YR6/1 褐灰色 | 砂礫 しまり粘性ともなし | 径 5～30mm の碎石を多量に含む。上位砂層の基礎部分に盛った褐灰色碎石層 |
| 1c | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | レンガ片、コンクリート片、廃材片等が混在する。焼土、炭化物、径 φ 5～20mm の破礫を多量、径 50～100mm の破礫を少量含む。5 層までを切っているところもある。 |
| 2 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 径 2～5mm 黄褐色土ブロックを含む。焼土粒、径 2mm の炭化物を少量含む。後世の攪乱によつて遺存状態は良好ではない。上面で近世以降の遺構を検出している。 |
| 3 | 7.5YR5/6 明褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 径 5～10mm の黒褐色土ブロック、白色粒子を多量含む。黒色スコリアを少量含む。 |
| 4 | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 径 5～10mm の黒褐色土ブロック、白色粒子を多量含む。 |
| 5 | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 径 5～10mm 黒褐色土ブロックを少量含む。グライ化により白色した黄褐色ブロックを含む。 |
| 6 | 2.5Y6/3 黄白色 | 粘土質シルト。 しまり粘性ともあり | 黄白色土。グライ化により白色化した黄褐色土ブロックを多量含む。 |
| 7 | 10YR5/8 黄褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 明黄褐色土。 |
| 8 | 2.5Y8/2 灰白色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 細かい砂粒子を含む。径 10～20mm の白色粘土ブロックを横位に点在する。 |
| 9 | 2.5Y6/1 黄灰色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 細かい砂粒子を含む。 |
| 10 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土 しまり粘性ともあり | 細かい砂粒子を少量含む。 |
| 11 | 10YR6/6 明黄褐色 | 砂 しまり粘性ともあり | 酸化して明黄褐色した粗い砂粒子主体。 |
| 12 | 10YR5/1 褐灰色 | 砂質粘土 しまり粘性ともあり | 粘土と細かい砂の互層。 |
| 13 | 5BG6/1 青灰色 | 砂礫 しまり粘性ともあり | 湧水。粗い青灰色砂と径 10～20mm の礫を多量、径 100～200mm の礫を少量含む。 |
| 14 | 5BG5/1 青灰色 | 粘土 しまり粘性ともあり | 植物遺存体を少量含む。径 5～20mm の礫を少量含む。 |

図5 基本層序

第3章 遺構と遺物

第1節 遺構の検出状況（図6、写真2）

調査範囲は近代以降の掘り込みによって大きく攪乱されており、近世以前のものと検出された遺構は、井戸跡2基、溝跡1条、ピット2基のみであった。なお、これらの遺構は2層黒褐色粘土質シルト上面で検出された。また、切石積側溝跡は近代以降の遺構であるが調査を実施した。

第2節 井戸跡（図7・8、写真4～7）

調査区北側で南北に並んで2基を検出した。どちらも開口部が漏斗状に広がる、素掘りの井戸である。

1号井戸跡は2号井戸跡の北側に位置する。開口部の平面形は不整形を呈している。規模は、長軸約190cm、短軸約160cm、深さ約292cmである。上面から約100cm下がった部分から内径が約60cmと狭まり、底面まで垂直に掘り下げている。底面はほぼ円形で平坦である。覆土は安全を考慮して、深さ約120cmまでの断面観察にとどめた。上方の堆積状況は5層に分層される。1層、2層が灰黄褐色粘土質シルトで炭化物を含む。非常にしまりが強い。3層は黒褐色粘土質シルトで酸化鉄を含む。4層は暗褐色粘土質シルトで炭化物、黄褐色土ブロックを含む。5層は黒褐色粘土質シルトで、黄褐色土ブロックを非常に多く含む。下方の堆積状況は断ち割りの際に崩落したため、底面付近の覆土のみの観察を行った。6層は黒褐色砂質粘土でしまりがなく、径20～50mmの礫を含む。出土遺物はない。

2号井戸跡は1号井戸跡の南側に位置する。開口部の平面形は橢円形を呈する。規模は、長軸約330cm、短軸約270cm、深さ約268cmである。上面から約120cm下がった部分から内径が約90cmと狭まり、底面では約60cmとなる。底面はほぼ円形で平坦である。覆土は安全を考慮して、深さ約120cmまでの上方の断面観察を行った。1層は黒褐色粘土質シルトで、拳大の円礫や碎石を多量に含み、短期間のうちに埋められた状況が考えられる。上面から深さ約30cmまでは非常にしまりが強いが、それ以下は脆い覆土であった。下方の堆積状況は断ち割りの際に崩落したため、底面付近の覆土のみの観察を行った。2層は黒褐色砂質粘土でしまりがなく、径100mmの礫を含む。当層中より棒状木製品や自然木の破片が出土している（図13、表1、写真10）。

第3節 溝跡（図9、写真8）

1号溝跡は調査区北側で北東から南西に直線状に延びる遺構である。北端、南端とも攪乱に壊されている。規模は、残存長約720cm、幅約40～55cm、深さ約32cmである。断面形は「U」字状で、壁面がやや外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分層される。1層は灰黄褐色粘土質シルト、2層は暗褐色粘土質シルト、3層は褐灰色粘土質シルトで黄褐色土ブロック、炭化物を含む。

遺物は陶磁器片、土器片が出土している。陶磁器類は18～19世紀代の資料である。土器類は胎土に雲母を含み、通常は近代に比定されるので、在地系のものである可能性もある。なお、出土品の残存率は、いずれも40%以下の小破片であった（図14、表2、写真11）。

第4節 ピット（図10・11）

1号溝跡に直交するように並んで2基を検出した。

1号ピットは2号ピットの東側に位置する。北側と南側を攪乱によって壊されている。平面形は円形で規模は長軸約50cm、深さ13cmである。断面形は皿状を呈する。覆土は単層で灰黄褐色粘土質シルトで黄褐色土ブロック、白色粒子、炭化粒子を含む。出土遺物はない。

2号ピットは1号溝跡と1号ピットの間に位置する。平面形は円形で規模は長軸約20cm、短軸約18cm、深さ12cmである。断面形はU字状を呈している。覆土は単層で灰黄褐色粘土質シルトで黄褐色土ブロック、白色粒子、炭化粒子を含む。出土遺物はない。

第5節 切石積側溝跡（図12、写真9）

切石積側溝跡は調査範囲を東西に横切るように調査区外へ延びている。平面形は直線状で規模は、残存長約1300cm、最大幅が約140cm、深さ50cmである。一部残存していた断面を見ると、間を約12cm離して2列に並べた胴木の上に、擁壁として切石の平坦面を内側にそろえて2段積みした側溝である。切石間の溝の幅は約28cmである。切石は裏込めに割栗石やコンクリート塊などで調整して積み上げている。切石間の覆土1層～3層は粗い砂粒子が主体で、裏込めにあたる4層は黒褐色粘土質シルト層である。胴木は長さ約230cm～350cmで幅が約12～16cmの角材で継手は平ほぞがあることから建築廃材の転用であろう。本遺構は旧木造校舎に伴う校内の施設で、その建設時期は不明であるが、廃棄時期は新鉄筋校舎建設工事に伴う昭和44年～昭和47年の間と考えられる。

第6節 攪乱出土の遺物（図15～17、表3・4、写真12・13）

後世の攪乱からは、近代以降の遺物とともに近世の資料も出土している。本報告書では全点を掲載した。最古のものと考えられるのは波佐見系のくらわんか碗で、1号溝跡と同時期のものである。他に肥前系及び瀬戸美濃系の様々な器形の磁器片が多く出土している。近現代のものも雑多な器形のものがあるが、いずれも小破片である。陶磁器以外の遺物としては、破損した銅錢（文久永宝）が1点出土している。

第4章　まとめ

今回の調査区は、享保9年（1724）、甲斐一国が幕府直轄となり、それ以降の明治維新まで幕府による甲府勤番制で代官所が設けられた場所に位置する。

調査で検出した遺構は、井戸2基、溝跡1基、ピット2基であった。井戸跡からは時期を決定できる資料の出土はなかったが、廃棄時期は少なくとも旧木造校舎落成のあった明治33年（1900）以前である。溝跡から出土した遺物は18世紀以降の資料が主体であり、ピットを含め、勤番期の代官所屋敷に伴う近世以降の諸施設であると考えられる。

参考文献

- 『甲府城下町遺跡I』甲府市教育委員会 2001
- 『甲府城下町遺跡II』甲府市教育委員会 2002
- 『甲府城下町遺跡III』甲府市教育委員会 2006
- 『甲府城下町遺跡IV』甲府市教育委員会 2007
- 『甲府城下町遺跡V』甲府市教育委員会 2010
- 『県指定史跡 甲府城跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第222集 山梨県 2005
- 『甲府城跡周辺確認調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第232集 山梨県 2006
- 『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第249集 山梨県 2007
- 『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第258集 山梨県 2008
- 志村憲一「甲府城下町遺跡の調査状況について」『江戸遺跡研究会会報』No.110 2007

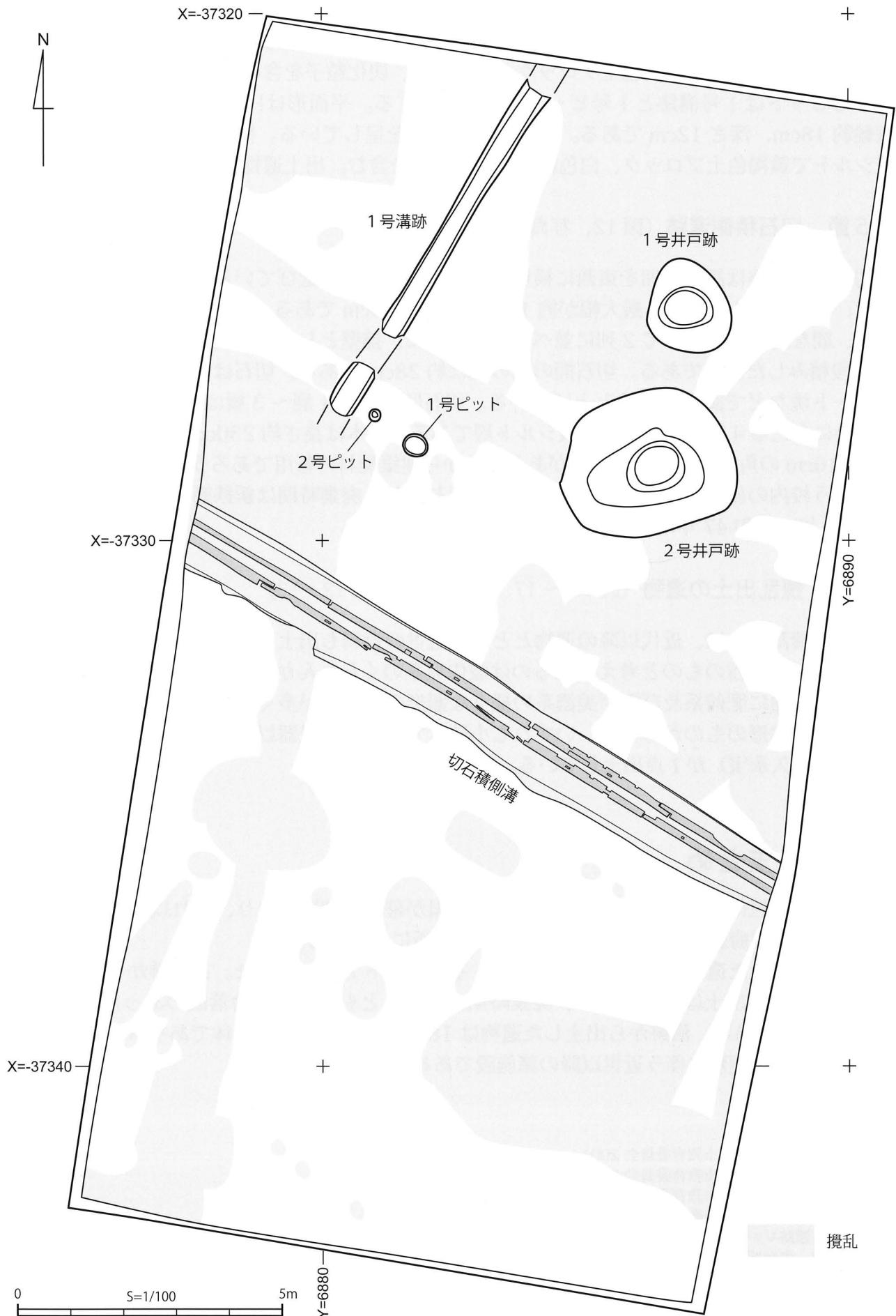
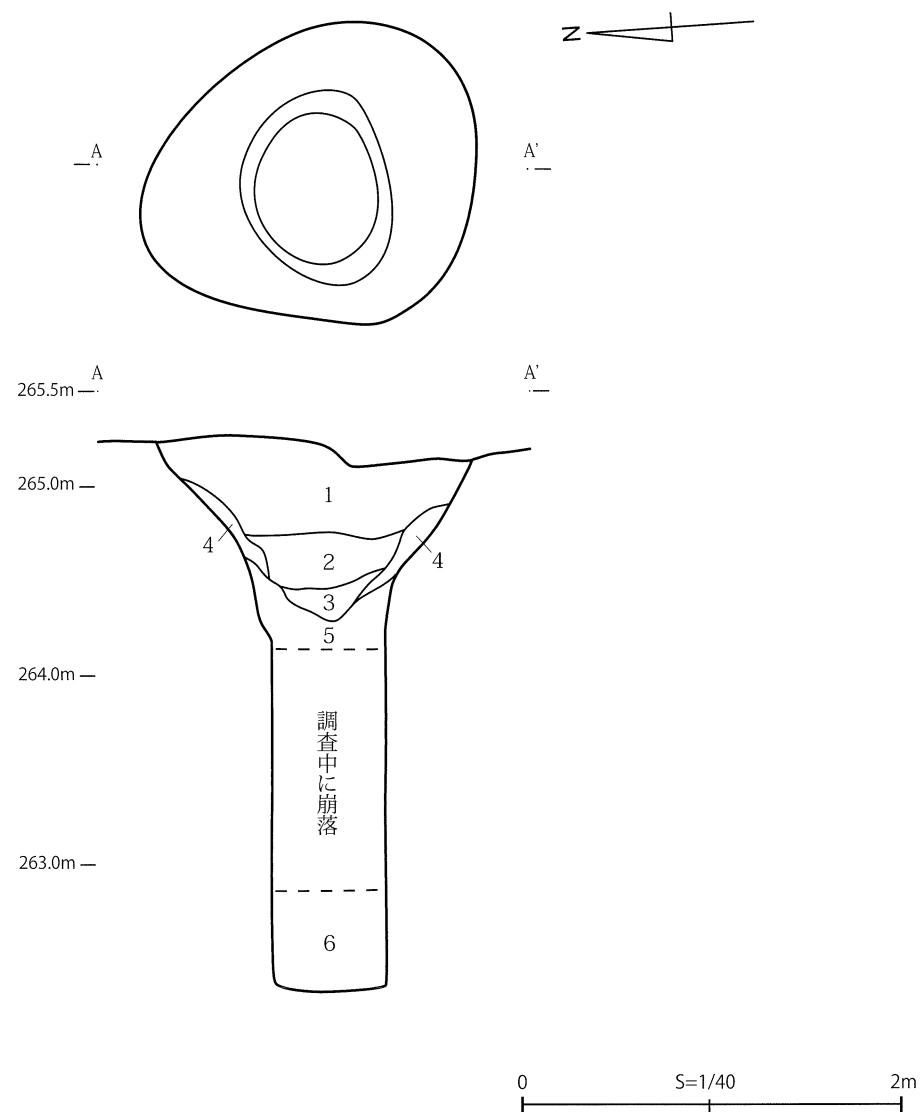
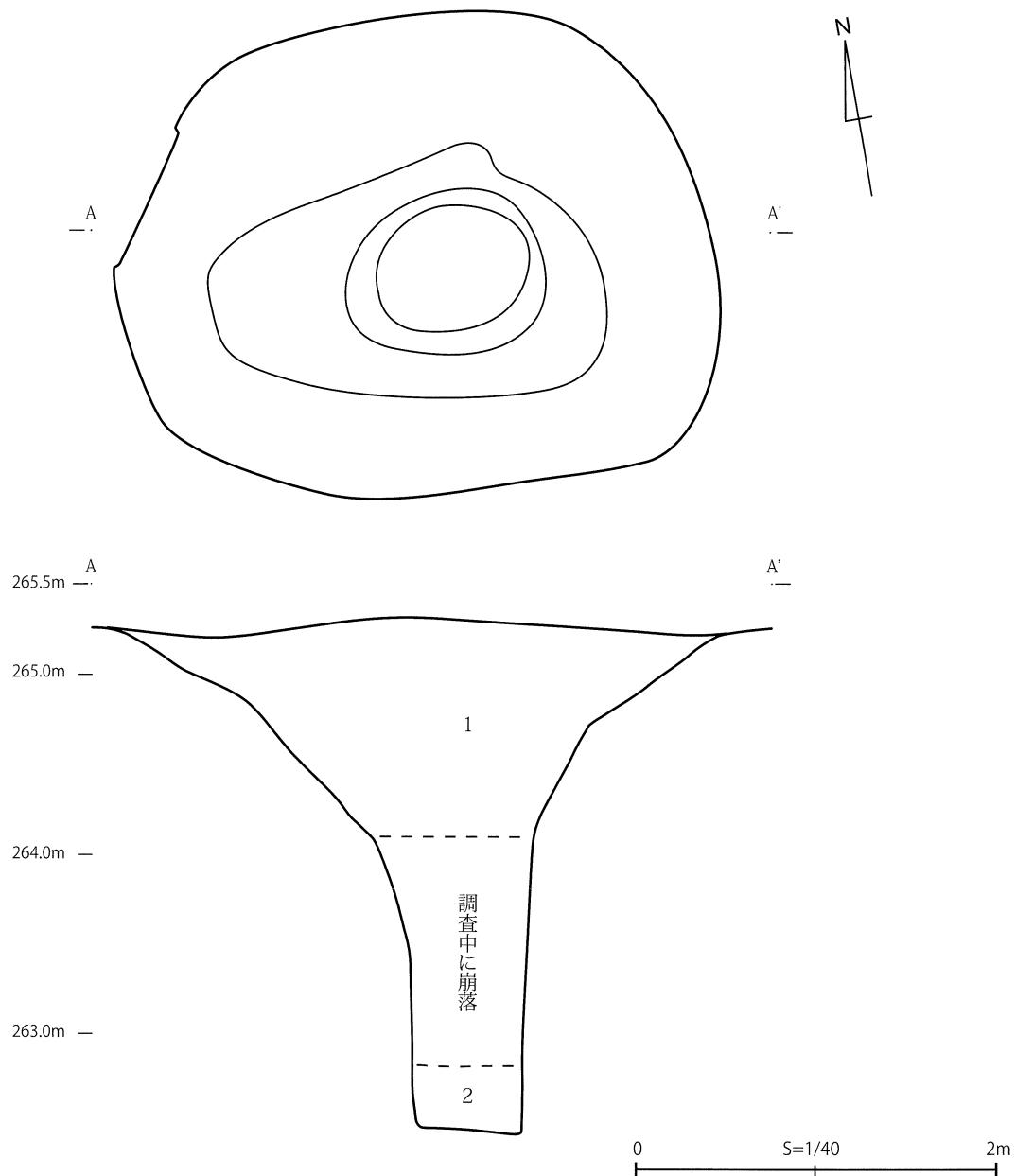


図6 遺構の分布



| 層序 | 土色 | 土質 | 混入物等 |
|----|--------------|---------------------|---|
| 1 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト しまり強く粘性あり | 径 5 ~ 30mm の炭化物、径 10 ~ 20mm の黄褐色土ブロックを斑点状に多量含む。灰色粒子を少量含む。 |
| 2 | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土質シルト しまり強く粘性あり | 径 5mm の炭化物を少量、径 10 ~ 20mm の黄褐色土ブロックを含む。 |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 径 5mm の黄褐色土ブロック、酸化鉄を少量含む。 |
| 4 | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 径 2 ~ 5mm の炭化物を少量、径 5mm 黄褐色土ブロックを多量含む。 |
| 5 | 10YR2/3 黒褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 径 20 ~ 50mm の黄褐色土ブロックを非常に多量含む。 |
| 6 | 10YR2/2 黒褐色 | 砂質粘土 しまりややなく粘性あり | 径 20 ~ 50mm の礫を多量含む。 |

図7 1号井戸跡



| 層序 | 土色 | 土質 | 混入物等 |
|----|-------------|-----------------------|--|
| 1 | 10YR3/2 黒褐色 | 粘土質シルト しまりややあり粘性あり | 径 50 ~ 300mm の自然石を多量に含む。遺構上面は転圧を施されひじょうに硬いが、深さ 30cm 以下はしまりのない脆い埋土。 |
| 2 | 10YR2/2 黒褐色 | 砂質粘土 しまりなく粘性あり | 径 100mm の礫を少量含む。木製品出土。底部堆積層。 |

図8 2号井戸跡

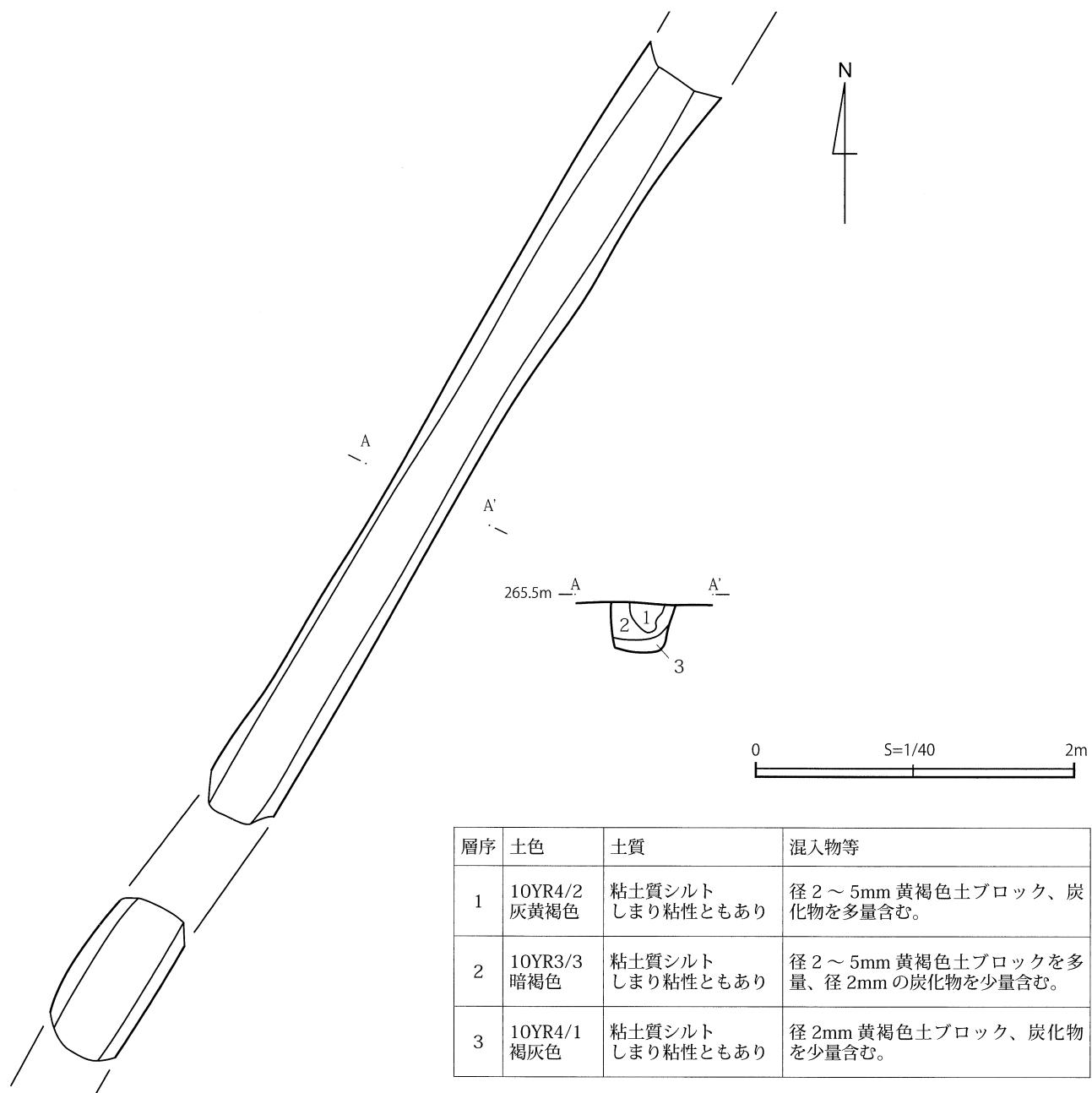


図9 1号溝跡

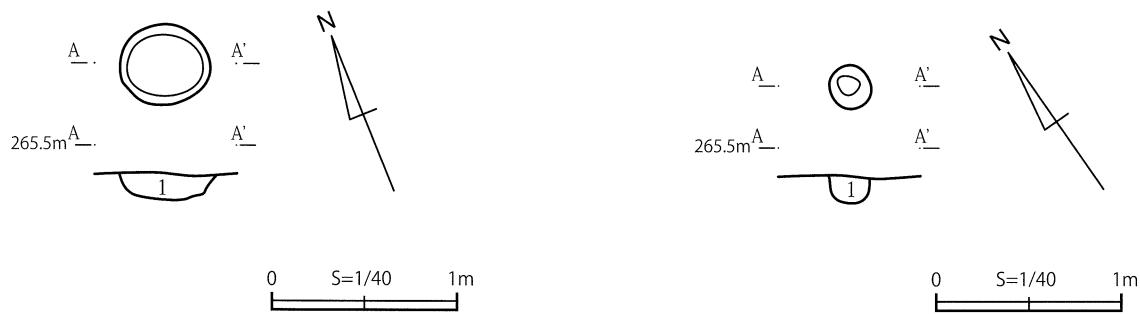
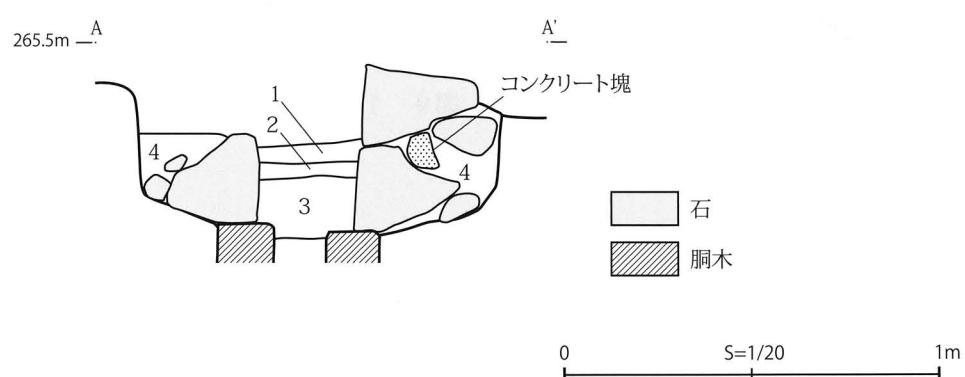
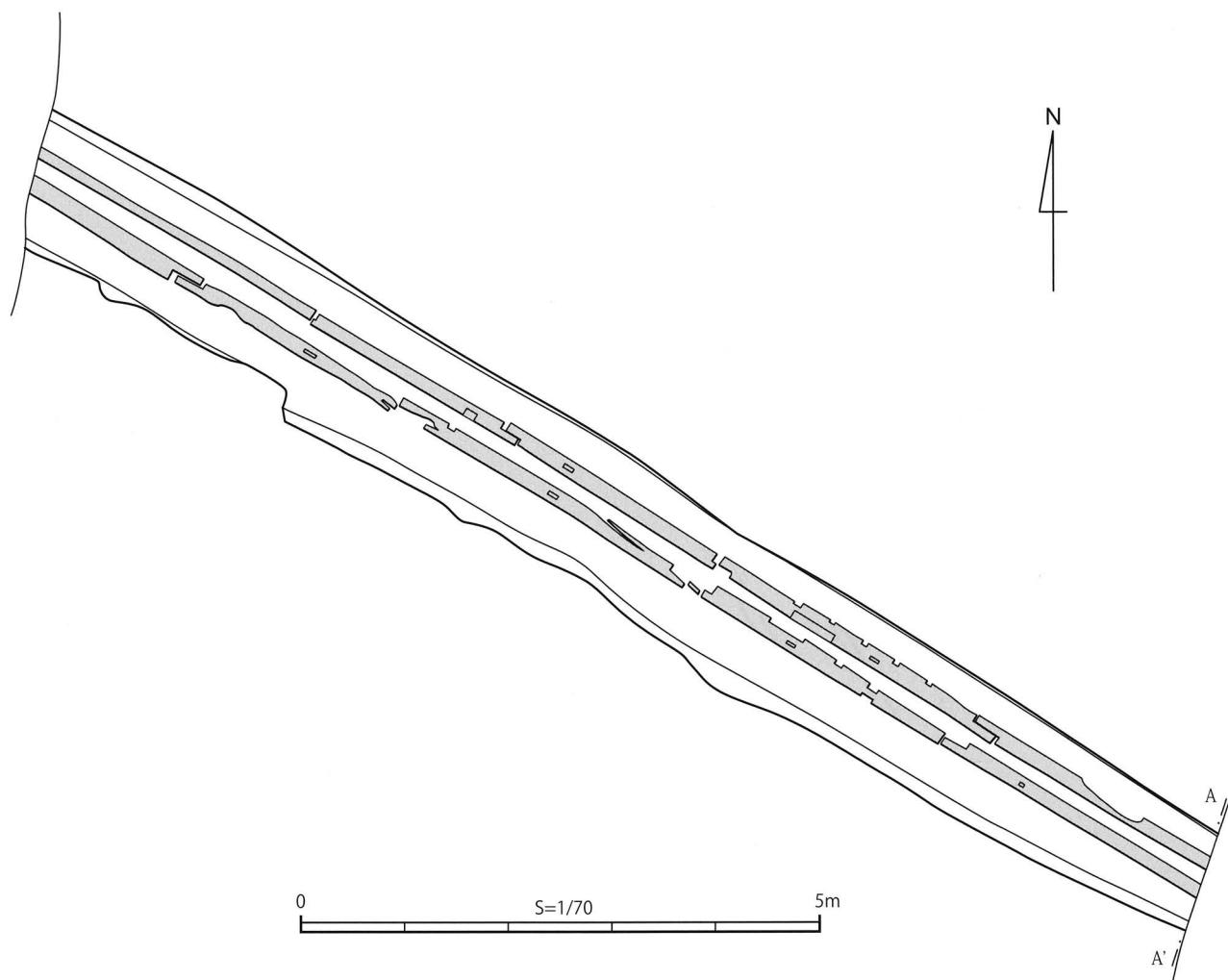


図10 1号ピット

図11 2号ピット



| 層序 | 土色 | 土質 | 混入物等 |
|----|-------------|------------------|---|
| 1 | 10YR4/1 褐灰色 | 砂 しまり粘性ともなし | 粗い褐色砂粒子主体。 |
| 2 | 10YR5/8 黄褐色 | 砂 しまり粘性ともなし | 酸化により赤化した粗い砂粒子主体 |
| 3 | 5BG4/1 暗青灰 | 粘土質砂 しまり粘性ともあり | 径 2 ~ 5mm の礫を少量含む。 |
| 4 | 10YR3/1 黒褐色 | 粘土質シルト しまり粘性ともあり | 径 20 ~ 50 の自然石を多量、径 30mm のコンクリート塊を少量含む。 |

図 12 切石積側溝跡

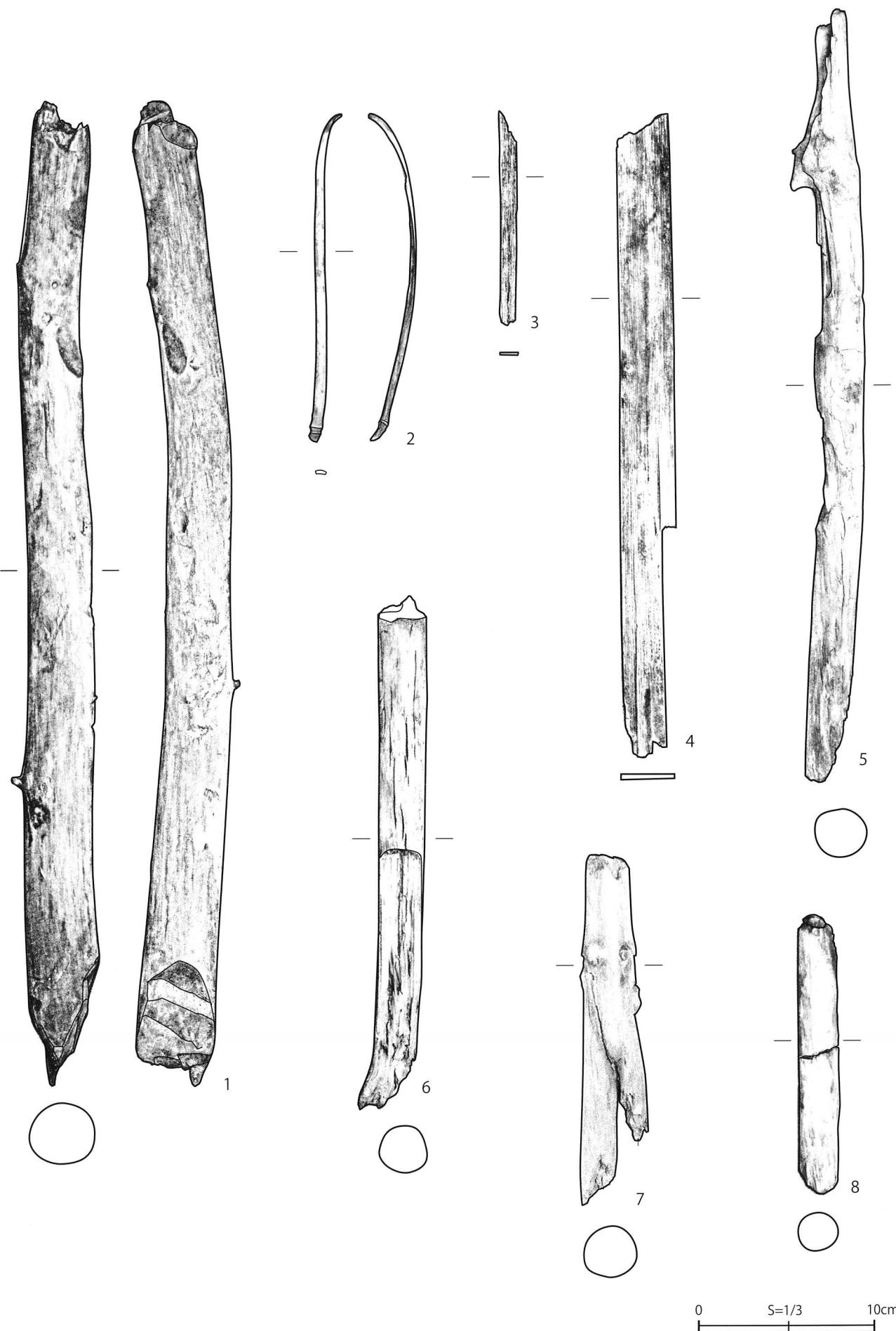


図 13 2号井戸跡出土遺物

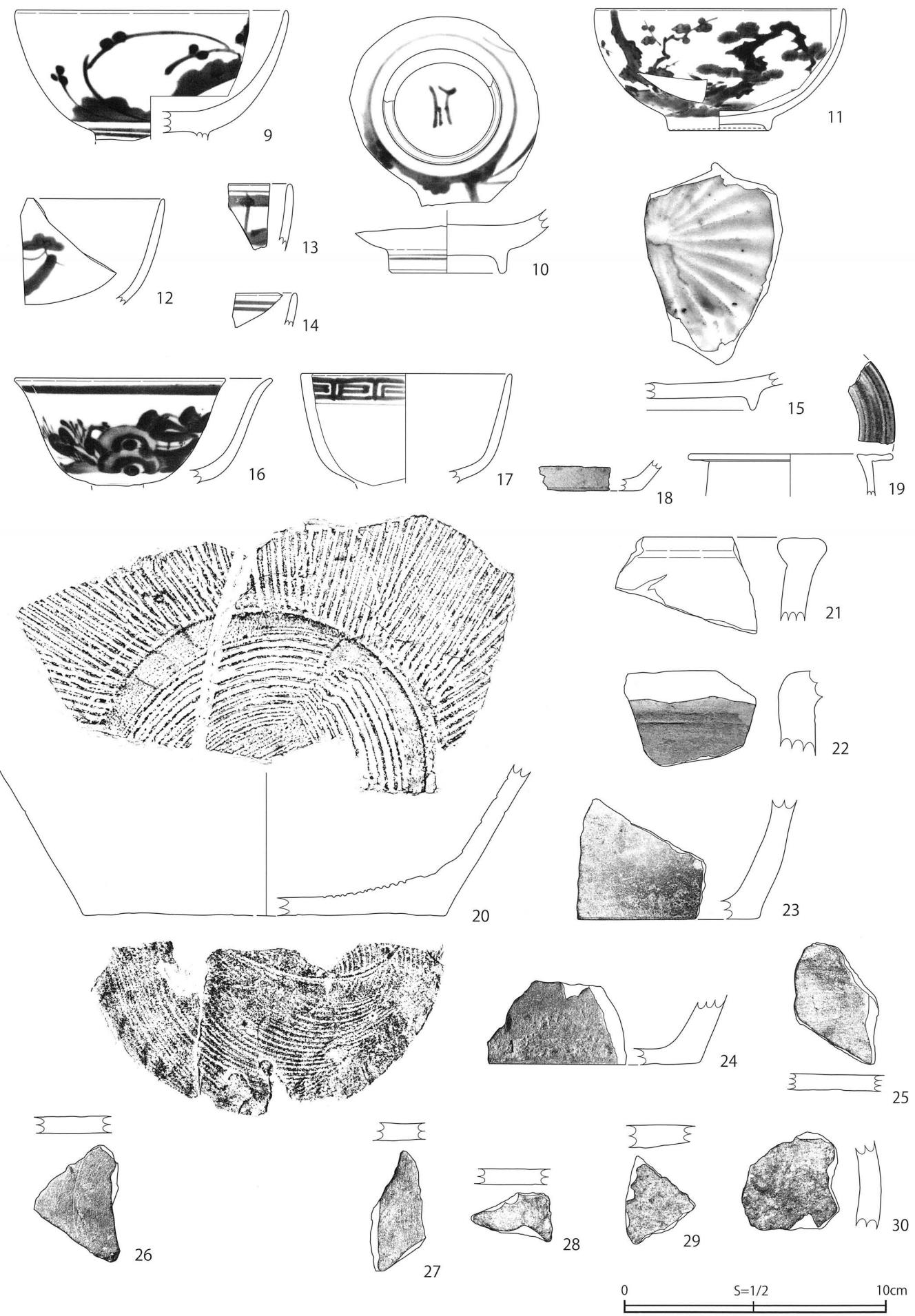


図 14 1号溝跡出土遺物

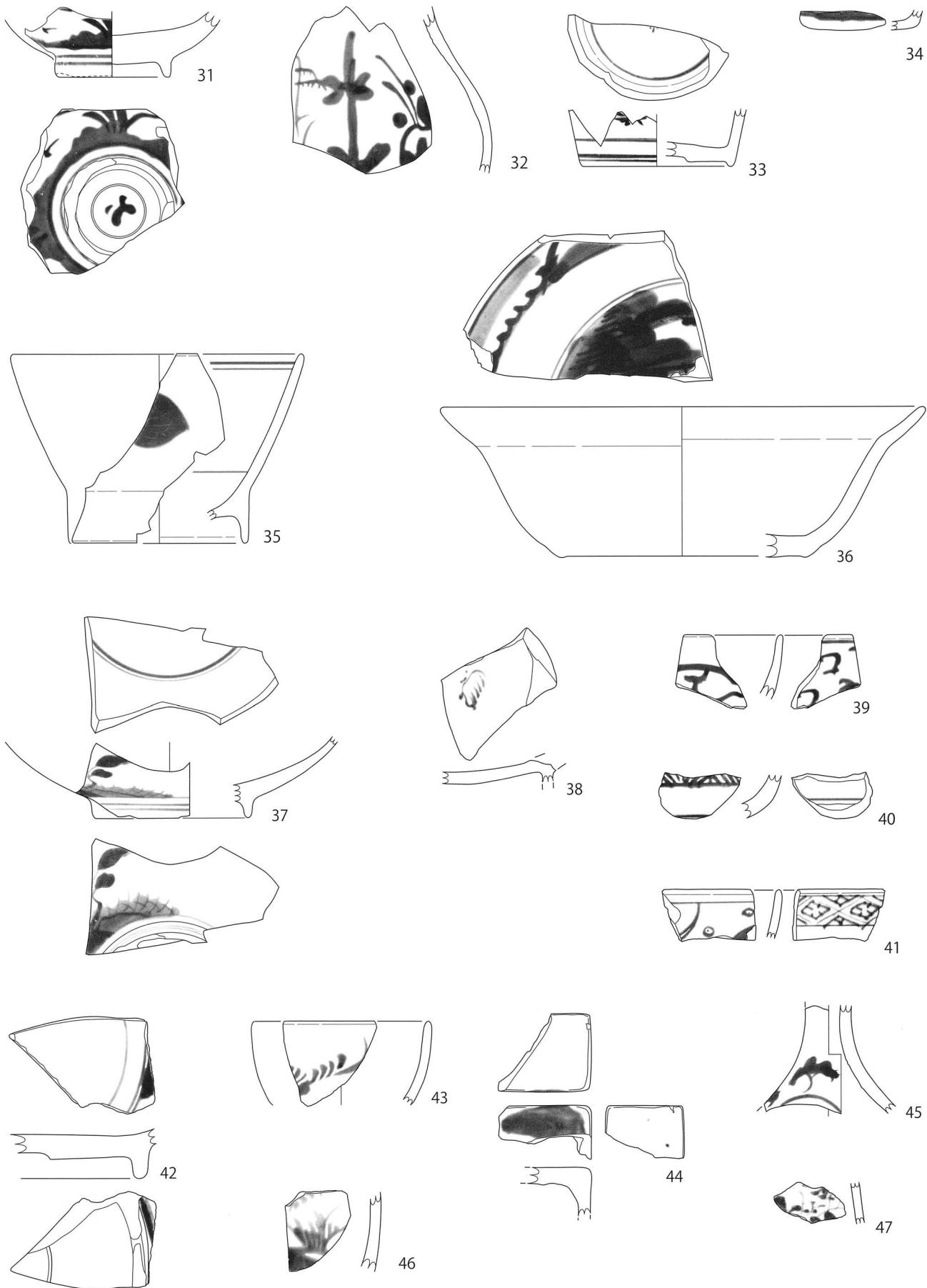


図 15 攪乱出土遺物 (1)

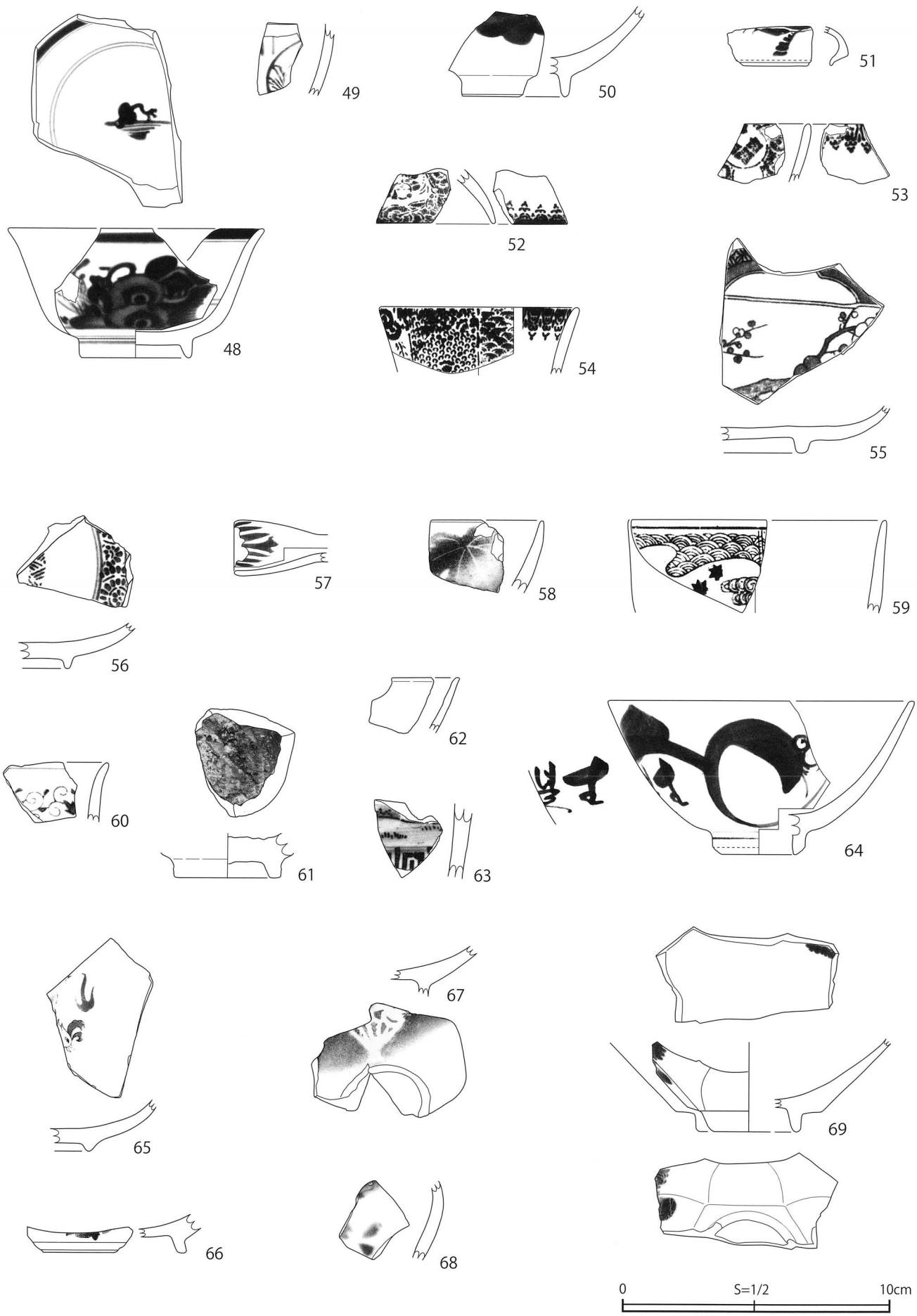


図 16 攪乱出土遺物 (2)

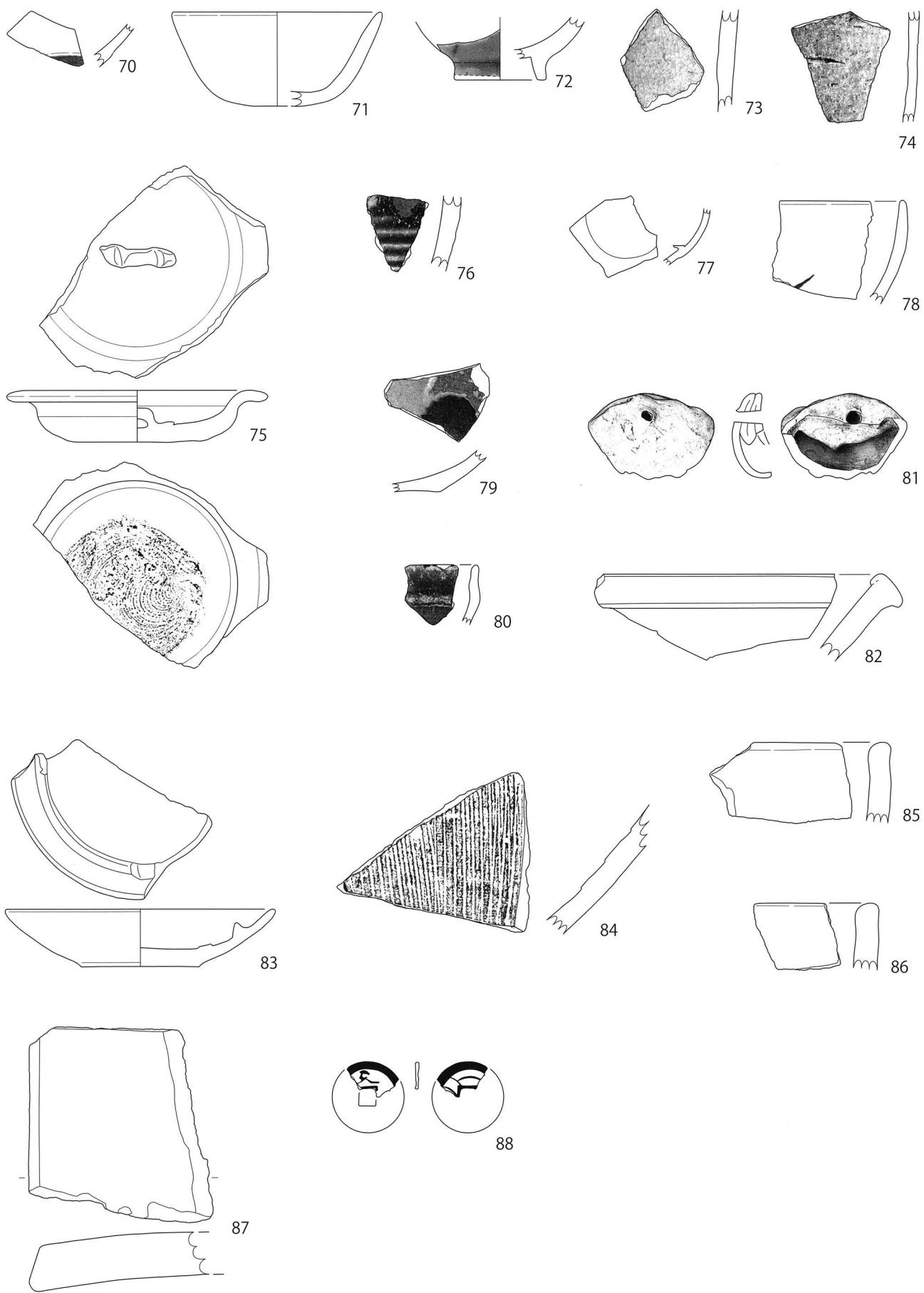


図17 攪乱出土遺物（3）

| 掲載番号 | 遺構名 | 種別 | 器形 | 法量 | | | 備考 |
|------|------|-----|------|-----|----|----|------|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | |
| 1 | 2号井戸 | 木製品 | 杭 | 554 | 36 | 34 | |
| 2 | 2号井戸 | 竹製品 | 不明 | 185 | 6 | 2 | 茶杓？ |
| 3 | 2号井戸 | 木製品 | 板 | 120 | 10 | 2 | 曲げ物？ |
| 4 | 2号井戸 | 木製品 | 板 | 366 | 30 | 3 | 曲げ物？ |
| 5 | 2号井戸 | 木製品 | 自然木？ | 435 | 29 | 27 | |
| 6 | 2号井戸 | 木製品 | 自然木？ | 290 | 26 | 23 | |
| 7 | 2号井戸 | 木製品 | 自然木？ | 197 | 30 | 28 | |
| 8 | 2号井戸 | 木製品 | 自然木？ | 159 | 24 | 22 | |

表1 2号井戸跡出土遺物観察表

| 掲載番号 | 遺構名 | 種別 | 器形 | 産地 | 年代 | 文様 | 法量 | | | 整形 | 色調 | 胎土 | 含有物 | 残存率 | 備考 |
|------|------|----|--------|----------|------------|-----------------------|-------|------|------|------|----|----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | |
| 9 | 1号溝跡 | 磁器 | くらわんか碗 | 肥前(波佐見系) | 1710～1800 | 外面 草花文 | (104) | (50) | (42) | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 40 | 被熱？ |
| 10 | 1号溝跡 | 磁器 | くらわんか碗 | 肥前(波佐見系) | 1710～1800 | 外面 草花文 高台内「大明年製」崩れ | — | — | (44) | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 20 | |
| 11 | 1号溝跡 | 磁器 | 半球碗 | 肥前系 | 1700～1860 | 外面 草花文 (松竹梅) | (94) | 47 | 38 | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 50 | |
| 12 | 1号溝跡 | 磁器 | 碗 | 肥前系 | 18c 中葉～19c | 草花文 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 10 | |
| 13 | 1号溝跡 | 磁器 | 碗 | 肥前系 | 19c 中葉 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 14 | 1号溝跡 | 磁器 | 碗 | 肥前系 | 19c 中葉 | 内面 二重圈線 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 15 | 1号溝跡 | 磁器 | 白磁皿 | 肥前系 | 19c | — | — | — | (38) | 口クロ | 白磁 | 緻密 | — | 20 | |
| 16 | 1号溝跡 | 磁器 | 端反碗 | 瀬戸美濃系 | 19c | 外面 山水文 内面 二重圈線 | (98) | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 30 | |
| 17 | 1号溝跡 | 磁器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 19c | 外面 雷文 | (80) | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 20 | |
| 18 | 1号溝跡 | 陶器 | 火鉢？ | 瀬戸美濃系 | 19c | — | — | — | — | 口クロ | 灰釉 | 密 | — | 5 | |
| 19 | 1号溝跡 | 陶器 | 蓋 | 瀬戸美濃系 | 19c | — | (77) | — | — | 口クロ | 焼締 | 密 | — | 5 | |
| 20 | 1号溝跡 | 陶器 | 摺鉢 | 瀬戸美濃系 | 18c 中葉～19c | — | — | — | — | 口クロ | 焼締 | 密 | 砂 | 20 | |
| 21 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |
| 22 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |
| 23 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |
| 24 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |
| 25 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |
| 26 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |
| 27 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |
| 28 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |
| 29 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |
| 30 | 1号溝跡 | 土器 | 不明 | 不明 | 近代 | — | — | — | — | 口クロ？ | 褐色 | 粗 | 雲母 | 5 | |

表2 1号溝跡出土遺物観察表

| 掲載番号 | 遺構名 | 種別 | 器形 | 産地 | 年代 | 文様 | 法量 | | | 整形 | 色調 | 胎土 | 含有物 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|---------|----------|-------------|---------------------------|-------|-------|------|-----|-------------|----|-----|-----|----|
| | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | |
| 31 | 攪乱 | 磁器 | くらわんか碗 | 肥前(波佐見系) | 1710~1800 | 外面草花文 高台内銘あり | 137 | 54 | 42 | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 30 | |
| 32 | 攪乱 | 磁器 | 瓶 | 肥前系 | 18c | 外面草花文 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 10 | |
| 33 | 攪乱 | 磁器 | 猪口 | 肥前系 | 18c | 見込若松文? | — | — | 55 | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 34 | 攪乱 | 磁器 | 猪口 | 肥前系 | 18c | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 35 | 攪乱 | 磁器 | 広東碗 | 肥前系 | 18c末葉~19c初頭 | 外面草文 | (69) | (108) | (66) | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 20 | |
| 36 | 攪乱 | 磁器 | 鉢 | 肥前系 | 18c末葉~19c初頭 | 内面家屋文? 外面青磁 | (178) | 56 | (92) | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 20 | |
| 37 | 攪乱 | 磁器 | 大碗 | 肥前系 | 18c末葉~19c初頭 | 外面草花文 | — | — | (58) | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 10 | |
| 38 | 攪乱 | 磁器 | 碗底部 | 肥前系 | 18c末葉~19c初頭 | 見込み千鳥 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 39 | 攪乱 | 磁器 | 皿 | 肥前系 | 18c末葉~19c初頭 | 外面唐草文 内面? | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 40 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 肥前系 | 18c末葉~19c初頭 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 41 | 攪乱 | 磁器 | 鉢 | 肥前系 | 18c末~19c初頭 | 外面不明 内面四方襍文 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 42 | 攪乱 | 磁器 | 皿 | 肥前系 | 18c末葉~19c初頭 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 10 | |
| 43 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 肥前系 | 18c末葉~19c初頭 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 44 | 攪乱 | 磁器 | 水滴 | 肥前系 | 18c末葉~19c初頭 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 20 | |
| 45 | 攪乱 | 磁器 | 瓶 | 肥前系 | 19c初頭~中葉 | 唐草文 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 30 | |
| 46 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 19c初頭~中葉 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 47 | 攪乱 | 磁器 | 瓶 | 不明 | 19c初頭~中葉 | 草花文? | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 48 | 攪乱 | 磁器 | 端反碗 | 瀬戸美濃系 | 19c | 外面山水文 内面二重圈線 見込海浜風景 | (95) | (48) | 41 | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 40 | |
| 49 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 19c | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 50 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 19c | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 10 | |
| 51 | 攪乱 | 磁器 | 段重蓋 | 肥前系 | 19c | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 52 | 攪乱 | 磁器 | 碗蓋 | 瀬戸美濃系 | 1880年代 | 唐子? | — | — | — | 口クロ | 型紙染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 53 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 1880年代 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 型紙染付 | 緻密 | — | 5 | |
| 54 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 1880年代 | 不明 | (96) | — | — | 口クロ | 型紙染付 | 緻密 | — | 10 | |
| 55 | 攪乱 | 磁器 | 皿 | 瀬戸美濃系 | 1880年代 | 梅 | — | — | — | 口クロ | 銅版転写 染付 | 緻密 | — | 10 | |
| 56 | 攪乱 | 磁器 | 皿 | 瀬戸美濃系 | 1880年代 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 型紙染付 | 緻密 | — | 20 | |
| 57 | 攪乱 | 磁器 | 急須把手部分? | 不明 | 1880年代 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 10 | |
| 58 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 1890年代以降 | 葉 | — | — | — | 口クロ | 吹墨絵付 (黒) | 緻密 | — | 5 | |
| 59 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 1910年代以降 | 波にもみじ | (96) | — | — | 口クロ | ゴム判染付 | 緻密 | — | 10 | |

表3 攪乱出土遺物観察表(1)

| 掲載番号 | 遺構名 | 種別 | 器形 | 産地 | 年代 | 文様 | 法量 | | | 整形 | 色調 | 胎土 | 含有物 | 残存率 | 備考 | |
|------|-----|----|---------------|----------------|----------|---------------|-------|----|------|---------|---------|----|-----|-----|-----|--|
| | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | | |
| 60 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 1910年代以降 | 薦？ | — | — | — | 口クロ | ゴム判染付 | 緻密 | — | 5 | | |
| 61 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 19c | 不明 | (41) | — | — | 口クロ | 青磁 | 緻密 | — | 5 | 被熱 | |
| 62 | 攪乱 | 磁器 | 盃 | 瀬戸美濃系 | 19c | 無文 | — | — | — | 口クロ | 白磁 | 緻密 | — | 5 | | |
| 63 | 攪乱 | 磁器 | 不明 | 不明 | 近現代 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 5 | | |
| 64 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 近現代 | 文字「鰐生」？ 鰐？ | (114) | 57 | (29) | 口クロ | 染付 | 緻密 | — | 40 | | |
| 65 | 攪乱 | 磁器 | 皿 | 不明 | 近現代 | 鳳凰文 | — | — | — | 口クロ | 色絵上絵付け | 緻密 | — | 5 | 洋食器 | |
| 66 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 近現代 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 色絵染付 | 緻密 | — | 5 | | |
| 67 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 近現代 | 不明 | — | — | — | 口クロ | 吹墨絵付(黒) | 緻密 | — | 20 | | |
| 68 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 20c | 不明 | — | — | — | 口クロ | 吹墨絵付(緑) | 緻密 | — | 5 | | |
| 69 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 近現代 | 褐色釉文 | — | — | (39) | 口クロ | 白磁 | 緻密 | — | 30 | | |
| 70 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 近現代 | 不明 | — | — | — | 口クロ・型作り | 白磁・鉄釉文 | 緻密 | — | 5 | | |
| 71 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 近現代 | — | (78) | 38 | — | 口クロ | 青磁 | 緻密 | — | 20 | | |
| 72 | 攪乱 | 磁器 | 碗 | 不明 | 不明 | 不明 | — | — | (35) | 口クロ | 青磁 貫入あり | 緻密 | — | 5 | | |
| 73 | 攪乱 | 陶器 | 火入れ？ | 瀬戸美濃系 | 19c | — | — | — | — | 口クロ | 灰釉 | 密 | — | 5 | | |
| 74 | 攪乱 | 陶器 | 徳利 | 瀬戸美濃系 | 19c | — | — | — | — | 口クロ | 灰釉 | 密 | — | 5 | | |
| 75 | 攪乱 | 陶器 | 蓋 | 瀬戸美濃系 | 19c | — | (97) | 19 | — | 口クロ | 灰釉 | 密 | — | 70 | | |
| 76 | 攪乱 | 陶器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 19c | — | — | — | — | 口クロ | 褐色 | 密 | — | 5 | | |
| 77 | 攪乱 | 朱泥 | 急須？ | 備前 | 19c | — | — | — | — | 口クロ | 褐色 | 緻密 | — | 5 | | |
| 78 | 攪乱 | 陶器 | 碗 | 瀬戸美濃系 | 近現代 | — | — | — | — | 口クロ | 褐色 | 密 | — | 5 | | |
| 79 | 攪乱 | 陶器 | 土瓶 底部 | 瀬戸美濃系 | 近現代 | — | — | — | — | 口クロ | 褐色 | 密 | — | 5 | | |
| 80 | 攪乱 | 陶器 | 不明 | 不明 | 不明 | — | — | — | — | 口クロ | 褐色 | 密 | — | 6 | | |
| 81 | 攪乱 | 土器 | 土鉢？ | 不明 | 不明 | — | — | — | — | 口クロ | 褐色 | 密 | — | 50 | | |
| 82 | 攪乱 | 土器 | 摺鉢 | 瀬戸美濃系 | 19c | — | — | — | — | 口クロ | 褐色 | 密 | — | 5 | | |
| 83 | 攪乱 | 土器 | 灯明受皿 | 瀬戸美濃系 | 18c | — | (100) | 21 | (44) | 口クロ | 褐色 | 密 | — | 40 | | |
| 84 | 攪乱 | 土器 | 摺鉢 | 堺 | 19c | — | — | — | — | 口クロ | 褐色 | 密 | — | 5 | | |
| 85 | 攪乱 | 土器 | 土もの | 近代 | 不明 | — | — | — | — | ? | 褐色 | 粗 | — | 5 | | |
| 86 | 攪乱 | 土器 | 土もの | 近代 | 不明 | — | — | — | — | ? | 褐色 | 粗 | — | 5 | | |
| 87 | 攪乱 | 土器 | 平瓦／平棟瓦 | 不明 | 不明 | — | — | — | — | ヘラ整形 | 褐色 | 粗 | 白色粒 | 30 | | |
| 88 | 攪乱 | 銅錢 | 文久永宝「草文」(11波) | 初鑄 浅草橋場(小菅) | 1860 | — | — | — | — | 鑄造 | — | — | — | — | 25 | |

表4 攪乱出土遺物観察表（2）



写真1 上空からの調査範囲
(北から)



写真2 完掘状況



写真3 基本層序北壁
(南から)



写真4 1号井戸跡断面
(西から)



写真5 1号井戸跡完掘
(西から)



写真6 2号井戸跡断面
(南から)



写真7 2号井戸跡完掘
(南から)



写真8 1号溝跡完掘
(南西から)



写真9 切石積側溝跡と胴木
(西から)



写真 10 2号井戸跡出土木製品

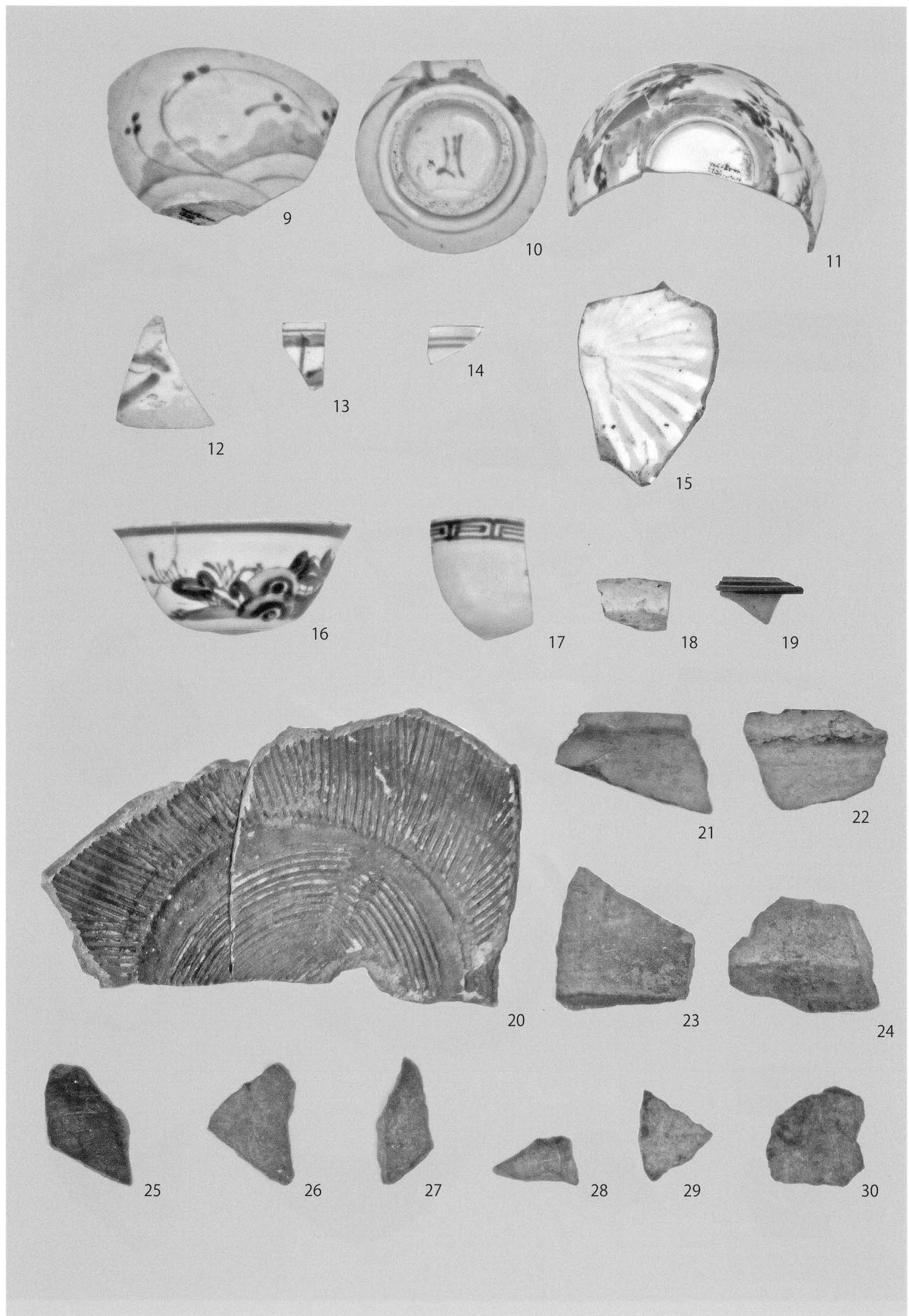


写真 11 1号溝跡出土遺物

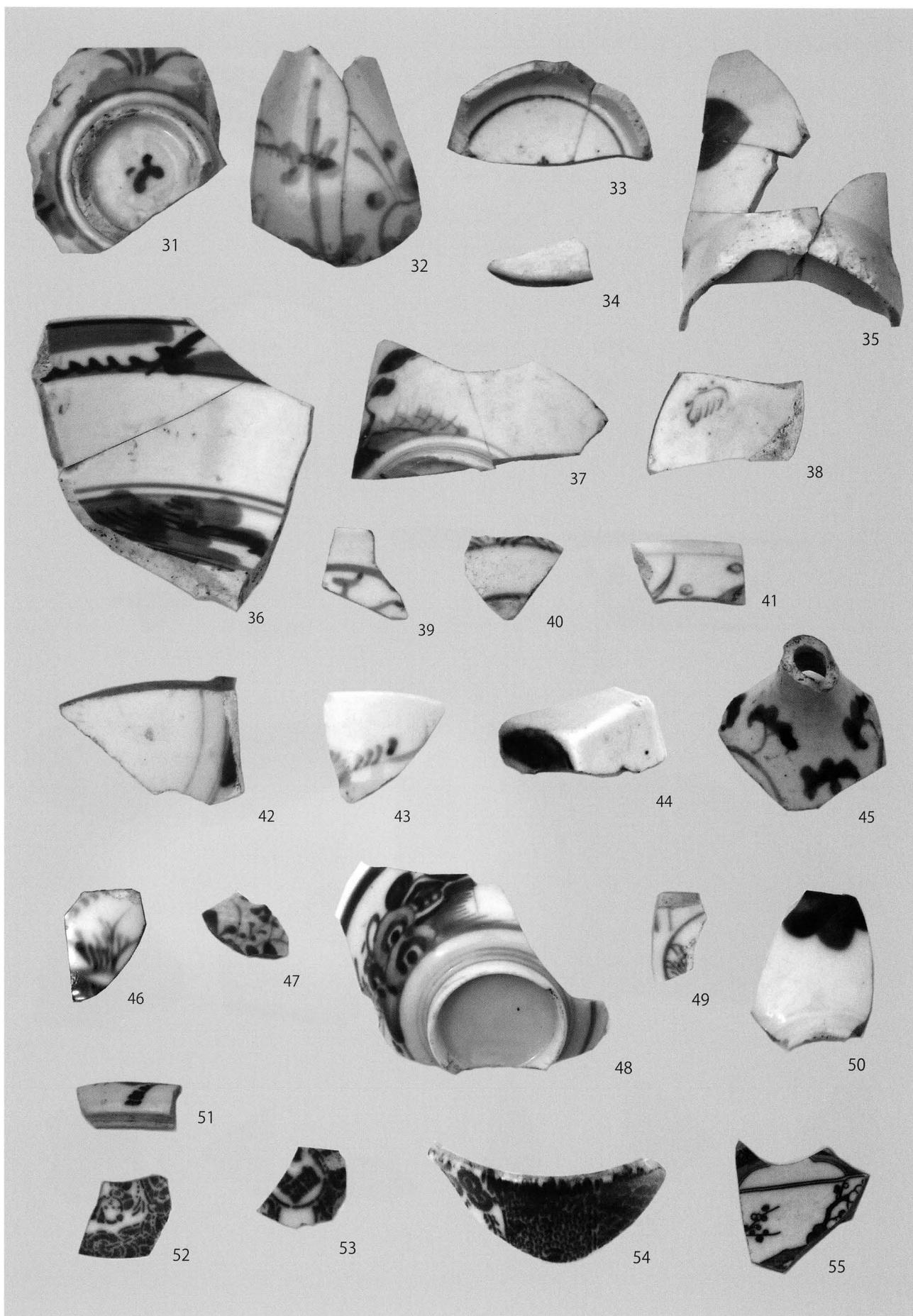


写真 12 搾乱出土遺物（1）

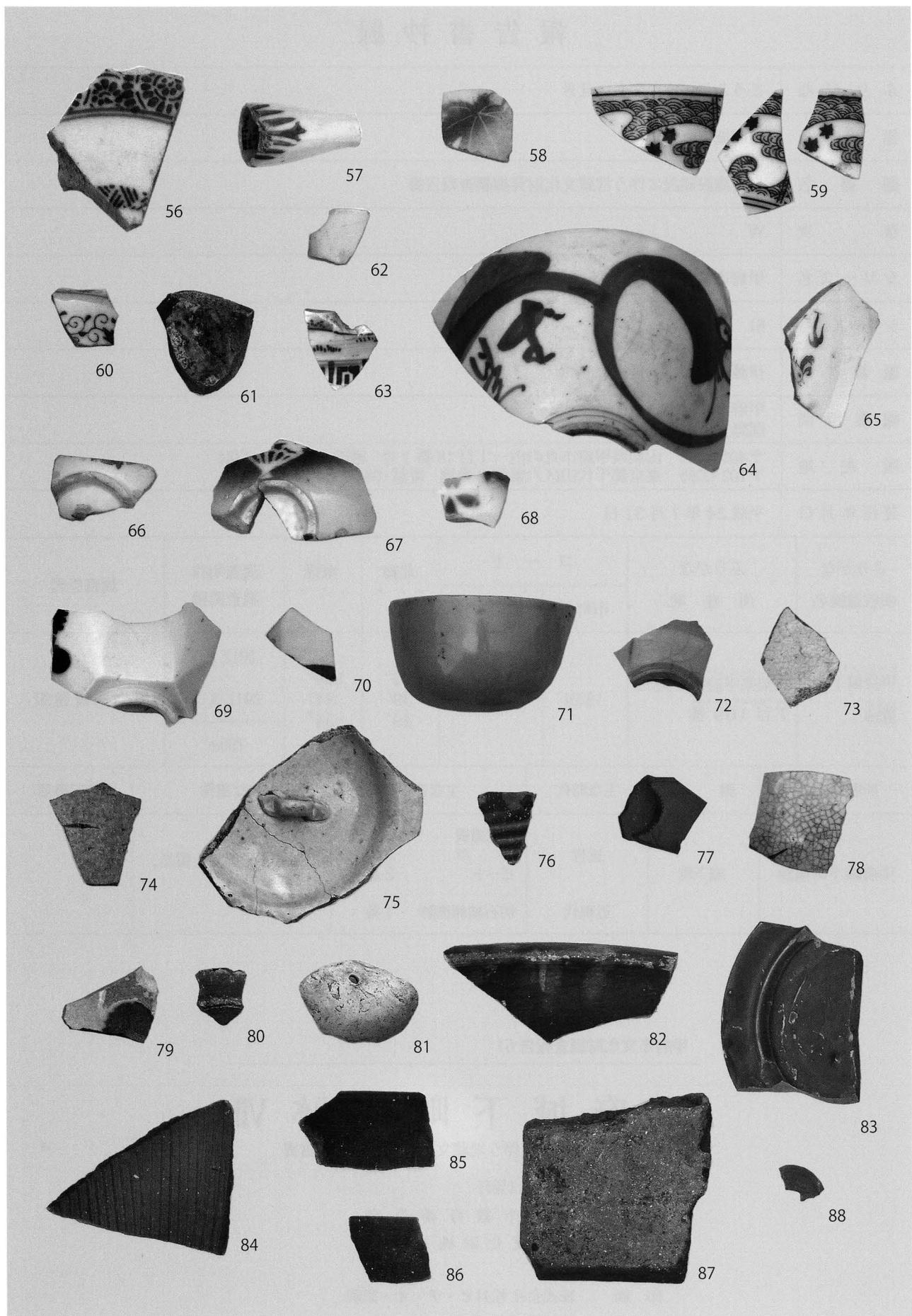


写真13 攪乱出土遺物（2）

報告書抄録

| ふりがな | こうふじょうかまちいせき | | | | | | |
|---------------------------------|--|-----------|-------------------|-------------------|-----------------------|---|--------|
| 書名 | 甲府城下町遺跡 | | | | | | |
| 副書名 | 集会施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | |
| 卷次 | VII | | | | | | |
| シリーズ名 | 甲府市文化財調査報告 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 61 | | | | | | |
| 編著者名 | 伊藤正幸・竹内俊之 | | | | | | |
| 編集機関 | 甲府市教育委員会 国際文化財株式会社 | | | | | | |
| 所在地 | 〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話(055)223-7324 〒102-0085 東京都千代田区六番町2番地 電話(03)6361-2455 | | | | | | |
| 発行年月日 | 平成24年7月31日 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 。' " | 東経 。' " | 調査期間 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | |
| こうふじょうかまち 甲府城下町 いせき 遺跡 | やまなしけんこうふしちゅうおうさん 山梨県甲府市中央三 ちようめひやくきゅうばん 丁目109番 | 19201 | 253 | 35° 39' 49" | 138° 34' 34" | 2012.3.5 ～ 2012.3.23 290m ² | 集会施設建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 甲府城下町遺跡 | 城下町 | 近世 近現代 | 溝状遺構 井戸 ピット | 1条 2基 2基 | 陶磁器、土器、土製品、 錢貨、木製品 | | |

甲府市文化財調査報告 61

甲府城下町遺跡 VII

集会施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24年7月31日発行

発行 甲府市教育委員会
国際文化財株式会社

印刷 株式会社松井ビ・テ・オ・印刷
栃木県宇都宮市陽東5-9-21

